

## 千葉県交通計画課訪問録

時：2014年1月10日 10:10～11:30

応対者：石井交通計画課副課長、同鉄道事業室町山氏、秘書課橋本氏

北実会：太田会長、山下名誉会長、間嶋

太田会長 知事への申し入れ文書の説明をし、首長が知事を訪問しているのに、交通計画課長が応対し、しかも要請文書を受けとらないというのは、住民無視も甚だしい。元々補助金を継続することは、今の高運賃を維持することにつながるのだから、補助金という壁をいったん取り外して、協議の席に着くべきではないか。

石井副課長 真摯に話し合う環境をつくるのが先ではないかということ。両者の意見が厳しく対立する中で、現在の合意スキームができた。今後の協議になるが、片や元に戻すと言うし、他は補助金を出さないと言う。出さない！と発表した足で、県にこられても話にならない。環境を整えるとはお互いに歩み寄る案、代替え案などの見通しをつけること。

太田 金子社長が12月までに決めてくれと申し入れてきた。協議どころか、「自分（北総）は補助金継続は当然と考えている。両市はどうするのか」と態度決定を迫ってきたものだ。こちらは第三者機関での評価も受けて、補助金なしでも10%どころかもっと下げられるということを確認している。

山下 両者の意見が違い環境が整っていないと言うのなら、合意書の4項で協議するとなっている、意見が食い違うから協議するのではないか。両市長が要請文を持ってきているのに、頭からはねつけるというのはとんでもないことだ。しかも課長が首長を追い散らしたと言うのでは礼を失しているのではないか。

石井 協議を始めないと次のスキームをまとめられない。白井・印西が中心で動いてくれということだ。

山下 第4項では関係者間で協議するとなっているのに、「おまえ等、言うことを聞

け！」という態度では困る。

石井 北総に対しても協議するように要請している。

山下 北総は協議ではなく、印西・白井両市に対して返事を迫ってきている。

間嶋 県として現状をどう考えているのか。京成は線路使用料は事実上払わず、千葉ニュータウン鉄道(CNR)を通じても利益を吸い上げている。上限運賃の認可申請をしている今こそ、国交省へ県から働きかけるチャンスだろう。

石井 運賃は国の認可事項、シンクタンクの報告も疑問の部分がある。

太田 疑問は北総が言っているだけだろう。

山下 北総の態度は脅迫じゃないか。県の態度にも驚くばかりだ。

石井 双方の当事者に話し合ってくれと言っている。

山下 わざわざ4項があるのだから、県が主導すべきだ。

石井 県に要請にくるときは、あらかじめ打ち合わせをしてからくるのが普通の手順だ。今回はそれがなかった。

太田 今回の県の態度は、北総線沿線の住民をバカにしたものだ。北総の決算内容も公にして、県としての方向を出すべきだろう。

石井 だから双方にテーブルについてもらうよう勧めている。

間嶋 県が主導してつくった合意なのだから、県が骨を折るべきだろう。

太田 北総線は京成にとってドル箱路線だから絶対に手放さない。県としてはもう一步踏み込んだ指導が必要だ。

山下 債務超過も解消して13年連続黒字。かつての亀甲社長は債務超過さえなくなれば、と言っていたのに、話が違う。負債も1300億くらいから800億くらいに減らしている。

間嶋 遙かに経営状態の悪い東葉高速でさえ、4月から通学定期の割引率をさらに10%引き上げるというのに、大儲けの北総は値上げするという、とんでもない会社だ。

石井 北総は自治体が補助金を出してくれているから下げしていると言っている。

太田 乗り代わり分17億円、CNRへは売り上げ全額渡す、こんな話はないですよ。30億くらいは京成が北総から利益の付け換えをしている。

石井 線路使用料は、資本費相当分と乗り換え分との多い方が支払われる。

太田 京成が過大に吸い上げている。1000円という株価も非現実的なものかも知れない。

間嶋 線路使用料は名目のみで、実質的には支払われていない。

山下 京成からの圧力があつたのではないか。

石井 そんなことはない。補助金を出せば下げるというのが北総の言い分。

山下 県として研究してくれ。

石井 本線で走っていた分が北総に回ってきたわけだから、その分減収になっているというのが京成の言い分。

山下・太田 協議の場をつくって、進めてくれ。北総の数字を明らかにして。

太田 県営鉄道の借りがあるのか。

石井 それはないと思っている。県営鉄道に対抗して、京成がぶつけてきたもの。

太田 京成が乗り出してきて運賃総取りということは、北総としては営業権の無償譲渡に当たる。株主代表訴訟も考えてもらいたい。

全員 ありがとうございます。

以上